

視



セルフレジ

「セルフレジ」の不正行為が問題になつてゐる。セルフレジとはスーパー・マーケットやコンビニエンスストアなどに設置されている買い物客自身で会計を行ふレジのことだ。

作成、9月から関係者に配布して注意を呼び掛けている。冊子には不正の具体的な手口やその対策が示されており、顔認証システムと警備員が連携する「科学保安」が再犯防止に効果的であることも紹介されている。

めて現場に出て万引き行為を目撃した時には足がすくんで声を掛けられなかつた」ことだつた。

万引き犯への対応は「人権への配慮」「誤認」「受傷事故」などさまざまなりスクが伴い、専門的な知識と技術が求められる。保安警備員は、まずそれらを修得してから現場に臨む必要がある。社内の警備員教育や研修と併せて活用したいのが、全国万引犯罪防止機

公式テキストからはセルフレジ  
不正など最新の知識も得ることが  
できる。検定試験の受験対策セミ  
ナーも開講され、オンラインで視  
聴可能だ。検定試験はこれまで8  
回行われ、600人余の「ロス対  
策士」を輩出してきた。

セルフレジの不正が最近クローゼ  
ジアップされているが、「万引き」  
は長年続く社会問題だ。刑法犯認  
知件数が減少傾向にある中で、万

ノ登録をレジ係が行い客が支払う方法と、商品登録も支払いも客が行う方法がある。不正はいずれの場合も、商品登録をこまかし持ち去る手口が多いという。

1月に発表された「2011年  
スーパーマーケット年次統計調査  
報告書」によると、スーパーにセ

ルブレジを設置している企業の割合は31・3%。これは3年前の約2倍にあたり、急速に普及が広がっていることがわかる。今後、被書はますます拡大するおそれがあ

筆者ほ以前、全日本警備業協会から「模範警備員表彰」を受けた2人の保安警備員を取材し、話を聞く機会があった。有能な警備員2人が共通して口にしたことは「初

的た。  
等の備員や従業員、メルカリなど関係者が自分に関わる分野に留まらずロス対策全体の知識を共有することで、一丸となって取り組む効果がある。

構（竹花豊理事長）が21年にアメトートさせた「ロス対策士検定試験制度」だ。

万引き犯の検挙は現行犯であることが条件となるため、実際の被害はさらに深刻であることが予想される。小売店舗の現場にロス対策士が増え知恵を出し合って対策を練ることで、なんとか状況を好転させてほしい。

保安警備員はロス対策士検定試験

保安警備員はロス対策士検定試験にチャレンジして警備の質を向上させ、資格を取得して「スキルの可視化」を図り、適正料金の確保につなげてもらいたい。